見記さまず、寸を受	Ta	付 る書面の交 第一項の規	正化に関す証する料 る法律(平書面の 成十八年法(平書面の が四規定にる者 まづく同条			事務義務者名称 額 時期	別表第一(第二条関係)	改正後	佐賀県手数料条例の一部を改正する条例に係る新旧対照表	参考資料	十六号の四の次に三号を加える改正規定は、	この条例は、平成十九年六月二日から施行する。ただし、	附則	-	四百八十の二 道路交 応急救護処置に関する 応い 一直第八号の見定こ る書	する講習の実施
						事務義務者名称 額 時期	別表第一(第二条関係)	改正前	係る新旧対照表		は、同年六月一日から施行する。	施行する。ただし、別表第一第四百四			講習手数料 き千二百円 受講申込みのとき	
四百五十四 略	動車を使用して 動車を使用して 動車を使用して	九十七条の一角の規定の適用を受けない場別である。 四千九百五合 四千九百五日 日本の日本の第二条	ハ 道路交通法第 二千円	7	D	手 数料 円 合	許に係許試験適用	中型自中型自中型自	免盲	四百四十七~四百五十二 略	の 再交付 つたことを する者	く届出があようと	条第三項の 再交付 高する 蓼和		面の交付	項の規定にとする

	- JJX4					A +IX		<i>-</i>	<i>/</i> r			10	
第八十九条 係る試験手数 当して同項の規定に基験を受料 当して同項の規定に基験を受料 当して同項の規定の適用を受けいよう る場合 二千円 道路交通法第 九十七条の二第 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九十七条の二第	種央許 種央許 種央許 種央許 種央許 種央許 種央許 種央許 種央許 種・ 一項の規定の適 間中 第二 車第二	型自動車第 車第二 車第二 コ 道路交通法第 に基づく大 型自動 型自動 二千円	許、中 用を受ける場合 動車第 九十七条の二第 一項の規定の適 1 上の規定の適 2 上の規定の適 2 上の規定の適 2 上の規定の適 2 上の提出 2 上の表し 2 上の表し 2 上の表し 2 上のまし 2 上のまし 2 上のまし 2 上のまし 2 上のまし 2 上のまし 2 上のまり 2 上のまり <t< td=""><td>四百五十五 略</td><td>の実施・に係る試験</td><td>第二人は一般の主義を表示。</td><td>第四百六十する者四千六百円</td><td>アは る試験 手数料</td><td>通自動二輪 許に係 許試験 会が提供する自事免許、普二種免 一種免 十円 (公安委員</td><td>牽引第 しくは 発許若 免許若 見います もくは もくは もくは もくは もく は まず かんしょう しんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう しんしょう かんしょう かんしょ かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ</td><td>第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第</td><td>転免許 一項の規定の適</td></t<>	四百五十五 略	の実施・に係る試験	第二人は一般の主義を表示。	第四百六十する者四千六百円	アは る試験 手数料	通自動二輪 許に係 許試験 会が提供する自事免許、普二種免 一種免 十円 (公安委員	牽引第 しくは 発許若 免許若 見います もくは もくは もくは もくは もく は まず かんしょう しんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう しんしょう かんしょう かんしょ かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ	第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第二重第	転免許 一項の規定の適
の規定に基 験を受料 の規定に基 験を受料 がく仮運転 けよう 発許に係る とする おいまする	近みの 道路交通法 免許に 免許試 九十七条の二第 込みの	新の実施 は普通自動 許に係る試を受け する者と まると まると が まると から な 動 か 会 が な な か か 会 が か 会 が か 会 が か 会 が か 会 が か か と か か か か か か か か か か か か か か か か	型自助車第 助車第 助車第 コ 道路交通去第に基づく大 普通自 普通自 二千百円	九条の規定 許又は 許又は 月 一 道路突動車第 動車第 九 元 道路交動車第 動車第 九	四百五十五 略								とき
と き 。 (四	四百五十八~	四百五十七 道路交通法 での規定に基 等の種類の の申請に基 する審査 対	四百五十六の三	台 過とき 週とき の実施 技能の検査 の実施	運転免許を	型自動車仮免許又は中の発音の関係を	四百五十六の 技能の 大型自 の規定に基 る者 型自動の規定に基 る者 型自動の規定に基 る者 型自動						
自動車免許 検定員 審査手 イ 技能検定員と お事免許 検定員 審査手 イ 技能検定員と お事免許 検定員 などし、次に掲げ 請のと おずく大型 る技能 検定員 類とする。	四百六十二 略	百五十七 運転す 限定解 千七百円 (公安委 解除申	略			手数料 查	づく大型自 車運転 七千六百五十円 で大型自 三千九百五十円 で大型自 型自動る場合にあっては、 の規定に基る者 型自動る場合にあっては、 型自動る場合にあっては、 会・提込みの		あっては、四千	を使用して 試験	日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	五十円 五十円 五十円 五十円	る場合 千六百
	四百五十八~四百六十二 略	四百五十七 運転す 限定解 千七百円 (公安委 解除中道路交通法 ること 除申請 員会が提供する自 請のと第九十一条 ができ 手数料 動車を使用して審 きの規定に基 る自動 なを受ける場合に づく運転す 車等の おっては、二千八 ることがで 種類の が 解除を 限定の解除 申請す あっては、二千八 あっと はいまして いっと はいました はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	四百五十六の三 略	施の検査の実	対する技能	ている者に免許を受け	四百五十六の 技能の 大型自 二千五百五十円) 一 道路交 検査を 動車運 (公安委員会が提 込みの通法第八十 受けよ 転免許 供する自動車を使 とき 九条第二項 うとす 技能検 用して試験を受け ない しょう ない しょう はい はい しょう はい しょう はい しょう はい はい しょう はい	四百円		提供する自動車(公安委員会が	一項の規定の適	九十七条の二章 の	定の適用を受け

第3年を発生されて、			四百六十四 特定第 特定第 一万四千七百五十 審査申	特定第 特定第 一万四千百円。た 審査申	四百六十四 特定第
第二年の経過性の一般の変化性を引用している。	れる者 五千五	れる者四千六			四百六十三略
第2年の保護者の 第2年の 第	ずれをも免除さ	ずれをも免除さ			
(中国	定する審査のい	定する審査のい		百円	
第12年 1997					
第12年 (中国 1971年) 11年	FI			ずれをも免除さ	
第20年後後年 1970年	る者 二千五十	る者二千円		定する審査のい	
第2年の発達技術の 11年11日 11年11	審査を免除され	審査を免除され		チハ及び二に規	
第四年の発達技術の 1 1 1 1 1 1 1 1 1	に関する知識の	に関する知識の		千九百五十円	
第一年 (1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	技能の評価方法	技能の評価方法		- 1	
第一年 1 年 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1				ずれをも免除さ	
第三年の20年代接続の 1 1 1 1 1 1 1 1 1	円	十円		定する審査のい	
1	れる者二千百	れる者 二千五			
	の審査を免除さ	の審査を免除さ		FI	
第四日 10 10 10 10 10 10 10 1	施に関する知識	施に関する知識			
20	ホ 技能検定の実	ホ 技能検定の実		審査を免除され	
3	二千二百円			に関する知識の	
第二年 (1-1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	る者を除く。)	る者を除く。)		技能の評価方法	
第一号 (下に掲げ) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	る者(チに拠け	る者(チに掲げ		へ自動車の運転	
第20 (2 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	審査を免除され	審査を失降され		百円	
の審査を免除され に関する者を(こ) しに係る 技能検 のでます を放けた金額と を放けた金額と の審査を免除され の審査を免除され に関する者を(こ) は、(に掲げ の審査を免除され の審査を免除され の審査を免除され の審査を免除され に関する法令に に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関すると に関する	ついての知識の	ついての知識の			
第九十九条 転免計 極に関する観との接続他のの (2) (1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	に関する法令に	に関する社会に		の審査を免除さ	
現の運転技能像のの表示を免除される者 (トに掲げ) 1 1 1 1 1 1 1 1 1	二自動車勢習所	二自動車勢習所		施に関する知識	
2				が、技能を対の多	
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	17年11年月	いる言を聞く			
2	げる者を徐く。)	ずる者を除く。)		二千百五十円	
2	れる者(チに掲	れる者(チに掲		る者を除く。)	
第五十九条 転免許 (下に掲げ) (第五十九条 転免許 (下に掲げ) (第五十九条 転免許 (下に掲げ) (第四月に (京) (下に掲げ) (第四月に (京) (下に掲げ) (の審査を免除さ	の審査を免除さ		る者(チに掲げ	
第二十八条 転免許	なっている事項	なっている事項		審査を免除され	
第九十九条 転免許者にあっては、一き審査を免除されたとの。 (下に掲げ) () () () () () () () () () (る教則の内容と	る教則の内容と		ついての知識の	
1	第四項に規定す	第四項に規定す		に関する法令に	
第九十九条 転免許 転免許 耐に あっては、一き 車の運転技能の 1	百八条の二十八	百八条の二十八		二自動車教習所	
第九十九条 転免許 転免許 を免除 10 1 1 1 1 1 1 1 1				二千百五十円	
第九十九条 転免許 私の書 (トに掲げ) 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	円	PHI		げる者を除く。)	
第九十九条 転免許 相に関する観視 1 1 1 1 1 1 1 1 1	二千四百五十	二千二百五十		れる者(チに掲	
第四千百二十円 1 1 1 1 1 1 1 1 1	掲げる者を除く。)	掲げる者を除く。)		の審査を免除さ	
第九十九条 転免許	される者(トに	される者(トに		なっている事項	
第四項に規定す 第四項に規定す 第九十九条 転免許 転免許 報志あっては、一き 20 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	能の審査を免除	能の審査を免除		る教則の内容と	
1	察及び採点の技	察及び採点の技		第四項に規定す	
道路交通法第	技能に関する観	技能に関する観		百八条の二十八	
大三百五十円 大三五五十円 大三五五十円 大三五五五十円 大三五五五十円 大三五五五十円 大三五五五五十円 大三五五五五五 大三五五五五 大三五五五五 大三五五五 大三五五五 大三五五 大三五五 大三五五 大三五五 大三五五 大三五 大三 大三				ハ 道路交通法第	
関	千四百五十円	千三百五十円		七千五十円	
第九十九条 転免許 転免許 相にあっては、一き 第九十九条 転免許 転免許 相にあっては、一き 第五十九条 転免許 転免許 を	る者を除く。)	る者を除く。)		掲げる者を除く。)	
能の審査を免除され	る者(トに掲げ	る者(トに掲げ		される者(トに	
察及び採点の技 (株) 大田 (大田) (大田) (大田) (大田) (大田) (大田) (大田)			查	能の審査を免除	
技能に関する観			検	察及び採点の技	
自動車の運転	うとす			技能に関する観	
第九十九条 転免許 転免許 割にあっては、一き第九十九条 転免許 転免許 割にあっては、一き第二号イの 技能検 定員審 れぞれ次に定める第二等四項 に係る 技能検 万四千百円からそ	受けよイ	1	種		
規定に基づ 定員の 査手数 額を減じた金額と第一号イの 技能検 定員審 れぞれ次に定める第二等四項 に係る 技能検 万四千百円からその二第四項 に係る 技能検 万四千百円からそ	料	料	5.5.	四千百五十円	
第一号イの 技能検 定員審 れぞれ次に定める 第九十九条 転免許 転免許 看にあっては、一き	定員の査手数	成定に基づ 定員の 査手数 額を減じた金額と	規	る者を除く。)	
の二第四項に係る技能検 万四千百円からそ第九十九条 転免許 転免許 者にあっては、一き	第一号イの 技能検 定員審 五十円からそれぞ	第一号イの 技能検 定員審 れぞれ次に定める	第		定員の審査する者
第九十九条 転免許 転免許 者にあっては、一き	に係る技能検	一第四項に係る技能検万匹千百円からそ	0)		係る技能検ようと
	第九十九条 転発許 転免許 探ける者にあって き	第九十九条 転発許 転免許者にあっては き	第		動車免許にを受け
まながまで 一年第一年第二年第二日 100 cm	うまではそー本式 - 本式 F ブブー ントル	1820年 1821年		*	力には日本日の著名

The control of th					*	灰	19:	平	<u> </u>	月	<u>'</u>	口	()	小()					炡	. 写	₹ .		1	羊	又						亏		9	٢							<u>U</u>	
# するもの除さい まする書食のい	れる者 二千七 の審査を免除さ	業に関する法令	自動車運転代行	一項に規定する	七号)第二条第	三年去津第五十	の通正代に関す	の の の の の の の の の の	転代行業の業務	業及び自動車運		真こ見記する旅	号)第二条第三	去れ高百八十三	一 道路通送社	1 年 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1	る者三千二百	審査を免除され			Λ.	PI				うとす。	受けよ 料 口	定員の査手数四	に係る技能検	順免許順免許	正育二 瓦育二	又は普又は普ィ	種免許 種免許 減じ	車第二車第二	型自動型自動	許、中許、中は、二万二千四百	道路交 動車第 動車第	大型自	百円	れる者四千六	ずれをも免除さ	定する審査のい
変した		業に関する法令	自動車運転代行	一項に規定する	七号)第二条第	三年去津第五十	る去津 (平戈十	の適臣とこ別す	転代行業の業務	業及び自動車運	客自助車軍送事	真こ見定する旅	号)第二条第三人称	去世島百八十三			る者三千三百	審査を免除され	に関する知識の		n	PI PI						する者	を受け	の審査数料	新姓	許技能イ	二種免二種免額と			許又は許又は二万二千五十円か	二重免ニ重免る皆こちつては、動車第一動車第一をだし、次に掲げ	大型自二万二千五十円。	百五十円	れる者四千七	ずれをも免除さ	定する審査のい
	る者を除く。)	審査を免除され	ついての知識の			千四百五十円	見ずる音をなく)	言の著名を分階	識の審査を免除	極伝に関する印	たっている事項	る教則の内容と	第四項に規定す	百八条の二十八	二 道路交通法第	五十円		の審査を免除さ	要な教習の技能	ハ学科教習に必	手三百円 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ずる者を除く。	の審査を免除さ	要な教習の技能	口技能教習に必	四千四百五十円	5.9	. (40)		1	台等員	「中国記言に 中二条 中 女習 つ 次 こ 至 ら る 質 を 一 で り 見 言 こ 中 二 条 中 女 習 つ 次 こ 至 ら る 質 を 一 で り る 質 を 一 で り る 質 を 一 で り る 質 を 一 で か ら そ れ そ	i la	掲げる者にあって	交動車免動車免円。ただし、次に	の大型自大型自		千八百円	れる者 一万五	ずれをも免除さ	定する審査のい	

四日 四日 四日 四日 四日 四日 四日 四日	審さる者 (上に掲げらき 神子 大						1 /4				/ 3		 (>1,					YT.	月		` -	Δ —	TIX						-7		_								
審習子 条法 一種選条法 一種選条法 一種選条法 一種 第一	審古	で で で で で で で で で で で で で で で で で で で		千二百五十四	というできる。 される者(チに	識の審査を免除	運転に関する知	その他自動車の	なっている事項	る教則の内容と	百八条の二十八	二 道路交通法第	千三百円	がら背と余く。)	の審査を免除さ	要な教習の技能	Ŧ	る者を除く。)	る者(トに掲げ	200	す	1		規定に基づ、尊員の一番手数「成じた金額とする。	第一号了の 牧習旨 尊員群 1次に定める質をの三第四項 に係る 教習指 五百円からそれぞ	転免許	特定第特定第	略	十円	れる者三千五	ずれをも免除さ	チニ及びホに規	百円	れる者九千二	だったらを余さ	トイ及び口に規	門	の審査を分開さ	についての知識
き 請審のと 申 と 申 対 て 交 資 教 免 第 に れ 審 習 許 車 は 二 型 種 自 基 イ 四 九 道 二 百 カ ム は 以 別 第 年 は 二 型 種 自 基 イ 四 九 道 二 百 カ ム は 以 別 第 年 か ら 本 起 に 飲 華 顔 白 色 動 づ の 質 冬 法	き き き き き き き き き き き き き き き き き き き	呼吸を急縮で1 ついての知識の に関する法令に	ホ自動車	千三百	思ずる者を される者	識の審査	運転に関	その他自己	なってい	る教則の第四項に	百八条の	二道路交	11名者を	がる者に	の審査を		Ŧ	る者を除	る者(ト)	7	うとす	1		現定に基づ、華賢力、在手数、める額を減っ	第一号イの 牧習指 尊員審 らそれぞれ		-												
	科	歳の	智所	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	ずら	免除																		通法		き in 0. e													

六号の規定する講習を受	工第一項第 伝に 関手 数科 「京動機 原動機 講習」時間につき 受講申 とき では、	の実施	関する講習る者車の運転にうとす	低基づく普習を受	四百七十八 普通自 普通自 講習 一時間につ 受講中 二第一項第 転に関 手数料 こ第一項第 転に関 手数料 とき	四百七十六・四百七十七 略	外 日動車 四 日動車 四 日動車 四 日動車 四 日動車 四 日 日 日 日 日 日 日 日 日	四百七十~四百七十五 略	四百六十八 略四百六十八 略四百六十八 略四百六十九 大型自大型自 千九百円 (公安委 受験中の実施 事免許 双 化 一百五十円) で は 普通自動 係る 再 試験手 に係る 再 試験手 の実施 うとす を を 数料 に係る 再 試験 を 数料 に係る 再 試験 を 数料 に の 実施 うとす を き を か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か
七号の規定を受講 七号の規定を受講	込みの 道路交通法 護処置 手間 込みの 込みの 道路交通法 護処置 手二百円 込みの とき 第百八条の に関す 講習一時間につき 受講申 とき こ第一項第る講習 とき とき	の実施	東の運転に きょしょ 対しま かんしょう おいま 一年の運転に きょうしょう	低基づく普 習を受	とき 第百八条の 車の運 車講習 上第一項第 転に関 手数料 大号の規定する講 とき 一第百八条の 車の運 車講習 とき 一第一項第 転に関 手数料 とき 一次みの	四百七十六・四百七十七 略		四百七十~四百七十五 略	四百六十八 略 四百六十八 略 四百六十八 略 四百六十八 略 四百六十九 大型自 大型自 千九百円 (公安を 受験申 第 1 年免許 工輪 車免許 動車を使用して試 とき 第 1 年の実施 一輪車免許 又免許 に 免許 再 2 全 2 を 2 を 3 を 3 を 4 を 5 を 5 を 5 を 5 を 5 を 5 を 5 を 5 を 5
1 5 万一 ガギ 三月 十日 佐賀県知事	平成十九手三月七日佐賀県行政財産使用料条例の一部を改		備考略	四百八十一~四百九十四 略			では、	しよう	四百八十 道 大型自 所字 画
知事 古 川 康	∓三月七日 財産使用料条例の一部を改正する条例をここに公布する。		備考略	四百八十一~四百九十四 略	実施 おお できます できます できます できます できます できます できます きょうきょう きょう きょう きょう きょう きょう きょう しょう しょう はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんし	二種免許に「転に関	四百八十の二 大型自		関 である である

略

2

略

改

IE.

後

改

正

前

号

り、

同項に次のただし書を加える。

●佐賀県条例第六号

佐賀県行政財産使用料条例の一 部を改正する条例

次のように改正する。 佐賀県行政財産使用料条例 (昭和三十九年佐賀県条例第三十三号)の 一部を

第一条中「第二百三十八条の四第四項」を「第二百三十八条の四第七項」

第三条の見出し中「方法」を削り、 同条第一項中 「納入通知書により」を削

ただし、知事が納付すべき期限を別に指定した場合は、 則 この限りでない。

この条例は、 平成十九年四月一日から施行する。

佐賀県行政財産使用料条例の一部を改正する条例に係る新旧対照表

参考資料

第 るところによる。 めがある場合を除くほか、この条例の定め 係る使用料については、他の条例に別の定 による許可を受けてする行政財産の使用に 十七号)第二百三十八条の四第七項の規定 一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六 第一条 地方自治法 係る使用料については、他の条例に別の定 るところによる。 めがある場合を除くほか、この条例の定め による許可を受けてする行政財産の使用に 十七号)第二百三十八条の四第四項の規定 (趣旨)

(使用料の納付方法)

平成19年3月7日(水)

第三条

許可を受けて行政財産を使用する者

第三条 付しなければならない。 入通知書により行政財産の使用開始前に納 (以下「使用者」という。) は、使用料を納 許可を受けて行政財産を使用する者

3

政財産の使用開始前に納付しなければなら

(以下「使用者」という。) は、

使用料を行

ない。ただし、知事が納付すべき期限を別

に指定した場合は、この限りでない。

佐賀県留置施設視察委員会条例をここに公布する。

平成十九年三月七日

佐賀県知事 古 \prod

康

●佐賀県条例第七号

に

佐賀県留置施設視察委員会条例

第一条この条例は、 営に関し必要な事項を定めるものとする。 項に規定する留置施設視察委員会 十七年法律第五十号)第二十一条第六項の規定に基づき、同法第二十条第一 刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律 Q 下 「委員会」という。)の組織及び運 (平成

(委員会の名称)

第二条 委員会の名称は、 佐賀県留置施設視察委員会とする。

(委員の定数等)

第三条委員会の委員の定数は、 四人とする

2 補欠の委員の任期は、 前任者の残任期間とする。

(昭和二十二年法律第六

3 委員は、三回に限り再任されることができる。

理由がある場合は、 公安委員会は、委員たるにふさわしくない非行があったときその他特別の 任期中であっても、委員を解任することができる。

(委員長)

4

第四条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、 委員会の会務を総理し、 委員会を代表する。

委員長に事故があるときは、 あらかじめその指名する委員が、その職務を

(庶務)

代理する。

第五条委員会の庶務は、 警察本部警務部において処理する。

(委任)

安委員会規則で定める。 この条例に定めるもののほか、 委員会の運営に関し必要な事項は、 公

則

この条例は、 (平成十八年法律第五十八号)の施行の日から施行する。 刑事施設及び受刑者の処遇等に関する法律の 部を改正する法

例をここに公布する。 佐賀県警察の組織に関する条例及び佐賀県行政手続条例の一部を改正する条

平成十九年三月七日

号

外

佐賀県知事

古 Ш 康

●佐賀県条例第八号

(佐賀県警察の組織に関する条例の一部改正)

改正する条例

佐賀県警察の組織に関する条例及び佐賀県行政手続条例の

一部を

第一条 佐賀県警察の組織に関する条例 (昭和二十九年佐賀県条例第二十二号)

の一部を次のように改正する。

までを一号ずつ繰り下げ、第九号の次に次の一号を加える。 第三条中第二十号を削り、 第十九号を第二十号とし、第十号から第十八号

留置施設に関すること。

(佐賀県行政手続条例の一部改正)

第二条 佐賀県行政手続条例(平成七年佐賀県条例第二十八号)の一部を次の

ように改正する。

第一条第一項中「第三十八条」を「第四十六条」に改める。

第三条第六号中 「留置場(警察本部又は警察署に置かれる人を留置するた

則

めの施設をいう。)」を「留置施設」に改める。

この条例は、 刑事施設及び受刑者の処遇等に関する法律の一部を改正する法

> 佐賀県行政手続条例第一条第一項の改正規定は、 (平成十八年法律第五十八号) の施行の日から施行する。 公布の日から施行する。 ただし、

律

第一条 (佐賀県警察の組織に関する条例の一部改正) に係る新旧対照表

第三条 第三条 をつか キー キー	第	二十一略	十一~二十略	一~九略	をつかさどる。	第三条 警務部においては、次に掲げる事務	(警務部の所掌事務)	改正後
	事務といっては、	-		一~九略	をつかさどる。	第三条	(警務部の所営	改

条 (佐賀県行政手続条例の一部改正) に係る新旧対照表

(目的等) (目的等) (目的等) (目的等) (目的等) (目的等) (目的等) (高用除外)	以下「法」という。)第以下「法」という。)第1のっとり、処分、行政指2のっとり、処分、行政進営におっる手続に関し、共通する1透明性(行政上の意思決1透明性(行政上の意思決25番で、過程が県民にとったをいう。)の向上を図とをいう。)の向上を図とをいう。)の向上を図とをいう。)の向上を図り、権利利益の保護に資する。
---	--